

# 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズと本学が果たす役割

蔵谷範子<sup>1)</sup> 有田清子<sup>2)</sup> 吉村恵美子<sup>1)</sup> 武内和子<sup>1)</sup>

## 要 旨

川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを知り、本学の果たす役割を考察する目的で、川崎市看護協会を対象に調査した。4101名に調査用紙を配布し、2466名から回答があった(回収率：60.1%)。その結果、「専門看護技術」「感染予防」「コミュニケーション」「医療安全」「業務改善」「病態生理」などについての学習ニーズが高かった。また、設定した学習項目30項目すべてに学習ニーズがあった。学習環境として、「自己の休日」「平日勤務時間以降」「土曜日」に「1時間～半日」程度の時間「川崎駅周辺」や「勤務地への出張」での希望が多かった。

学習ニーズを支援するための本学役割として、本学が生涯学習施設としての機能を発揮して、集団の学習ニーズへの支援をしていくこと、特定の施設や特定の小集団に対してその研修・学習内容に応じて出張個別支援を行うこと、看護教育施設としての更なる施設設備の活用や人的資源の活用方法を検討することが考えられた。

キーワード：看護職員 学習ニーズ 地域貢献 生涯学習

## はじめに

本短期大学は、川崎市の保健医療体制などの整備計画の一環として、看護基礎教育内容の充実を目的に設置された市内唯一の短期大学である。短期大学内での教育のほか、当初より、地域への公開講座(年1回)の開催、医療関係者に向けては臨床指導者講習会の講師を担うなどして、その役割を果たしてきた。さらに近年では、川崎市内への学生就職率の向上に努力し、その成果を挙げてきた。また、市立病院における事例研究指導や各種研修会の講師を担うなど、川崎市の医療への貢献を深めつつあると思われる。

一方、兼職として、複数の教員が川崎市内外の施設の看護研究指導や研修講師を引き受けている現状があり、市内の看護職者に対し、「看護」の短期大学であることをより一層活用していくことが求められているのではないかと思われた。しかしながら、これまで川崎市内の看護職者の本学に対する意向等について明らかにしたものは見当たらない。

そこで、川崎市内の医療施設の看護職員に対して、「川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを知る」ことを目的として、自作の質問紙調査を実施したので報告する。

## I. 研究目的

1. 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを知る。
2. 1に基づき、本学の果たす役割を考察する。

## II. 研究方法

1. 対象：川崎市看護協会員 4101名
2. 方法：川崎市看護協会の協力を得て、郵送による自作質問紙調査を行った。

2007年1月10日に郵送配布し、1月31日までに郵送による回収を行った。

郵送による配布・回収方法は、川崎市看護協会の通常の方法に倣った。

質問紙は、先行研究<sup>1) 2)</sup>を参考に、内容の妥当性を研究者間で検討し作成した。

3. 内容：1) 一般属性  
2) 研修・学習希望事項 など

1) 川崎市立看護短期大学

2) 徳州会グループ大学設置準備室

3) 研修・学習希望日程、場所、時間、形態、費用、短大での研修・学習会開催に対する参加の有無、短大施設利用希望など

4. 分析方法：記述統計を用いて分析した。
5. 倫理的配慮：調査協力依頼文書及び調査票に、研究目的、回答は無記名であること、調査票は個人が特定されないよう統計的に処理すること、得られたデータは本研究以外に使用しないことなどを明記した。また、調査票への回答を持って研究への同意とする旨記述した。調査票回収には、個別の返信用封筒を添付した。

### III. 結果

1. 川崎市看護協会員4101名に調査用紙を配布し、2466名から回答があった（回収率：60.1%）。
2. 対象者の属性（表1）

対象者の年齢は、20代が最も多く40.6%、30代が31.0%、40歳代17.8%と続いた。職種は、看護師が最も多く86.9%、以下准看護師7.7%、助産師3.5%。保健師1.9%だった。平均実務経験は11.5年だった。勤務場所は、総合病院59.6%、大学病院31.1%で、合わせて90.7%を占めた。平均現職場年数は7.3年であり、職位はスタッフとして勤務しているものが最も多く78.9%、主任8.3%、看護師長6.2%だった。雇用形態は常勤が97.2%だった。

3. 対象者の学習ニーズ

- 1) 受講希望項目（表2）（表3）

30項目挙げた各項目に対する受講希望は、「専門看護技術」48.3%、「感染予防」44.7%、「コミュニケーション」39.1%の順に希望が多かった。

また、30項目のうち特に希望する項目を3つ選択してもらったところ、「専門看護技術」36.1%、「コミュニケーション」21.7%、「感染予防」20.4%の順に希望が多かった。どちらも上位6項目に入った項目は「専門看護技術」「感染予防」「コミュニケーション」「医療安全」「業務改善」「病態生理」と一致していた。また、30項目すべてに受講希望があった。

表1：対象者の属性

		n=2466	
		人数	%
年齢	年齢10代	3	0.1
	年齢20代	1000	40.6
	年齢30代	764	31.0
	年齢40代	440	17.8
	年齢50代	224	9.1
	その他	25	1.5
職種	保健師	47	1.9
	助産師	86	3.5
	看護師	2136	86.9
	准看護師	190	7.7
	勤務場所		
	総合病院	1470	59.6
	大学病院	768	31.1
	訪問看護ステーション	40	1.6
	助産院	36	1.5
	診療所	6	0.2
	保健福祉センター	15	0.6
	介護老人保健施設	24	1.0
	居宅介護支援事業所	4	0.2
	勤務していない	50	2.0
	その他	2	2.2
職位	スタッフ	1946	78.9
	副主任	46	1.9
	主任	204	8.3
	看護師長	152	6.2
	看護部長	18	0.7
	教員	15	0.6
	その他	17	3.4
	雇用形態		
	常勤	2388	97.2
	非常勤	69	2.8
	平均実務経験年数	11.5年	
	現職場経験年数	7.3年	

- 2) 研修・学習の日程（表4）

「平日勤務時間内」71.9%、「自己の休日」22.0%、「平日勤務時間以降」18.7%、「土曜日」17.1%の順に希望が多かった。

- 3) 研修・学習の場所（表5）

「川崎駅周辺」61.4%、「勤務地への出張」45.7%、「短大」13.1%の順で希望が多かった。

- 4) 1回の研修・学習時間（表6）

「1.5～2時間」37.6%、「半日」34.5%、「1時間」18.5%の順で希望が多かった。

- 5) 研修・学習の開催形態（表7）

「単発」56.1%、「定期的」46.5%、「集中」25.6%の順で希望が多かった。

- 6) 1回の研修・学習の費用（表8）

「2000～3000円」33.0%、「2000円以内」28.5%、「3000～5000円」21.7%の順で希望が多かった。

- 7) 短大で研修・学習会開催した場合の参加の有無（表9）

「参加」45.9%、「ぜひ参加」19.7%で、両者を合わせると65.6%が参加すると答えていた。「どちらともいえない」が31.1%、「参加しない」2.2%だった。

8) 短大施設の利用希望 (表10)

「図書館」63.3%、「パソコン」28.2%の希望が多かった。「生活療法室」6.7%、「会議室」5.1%、「講堂」5.0%と続いた。

表2：各項目に対する受講希望

受講内容	人数	%
専門看護技術	1190	48.3
感染予防	1103	44.7
コミュニケーション	963	39.1
医療安全	908	36.8
業務改善	783	31.8
病態整理	694	28.1
看護記録	655	26.6
看護過程・診断	654	26.5
基本看護技術	646	26.2
心理相談	645	26.2
医療機器	631	25.6
基礎医学	571	23.2
医療・看護倫理	565	22.9
医療保険	524	21.2
キャリア開発	515	20.9
看護と法	497	20.2
看護教育	469	19.0
看護研究	427	17.3
看護管理	422	17.1
看護経済	313	12.7
臨床実習指導	297	12.0
看護理論	293	11.9
看護政策	292	11.8
看護トピックス	285	11.6
情報処理	269	10.9
代替療法	232	9.4
個人情報	229	9.3
ヘルスプロモーション	224	9.1
文献検索	200	8.1
その他	43	1.7

各項目  
に対する  
受講希望

表3：選択した受講希望項目

受講内容	n=2466				% (①②③の合 計/2466)
	受講希望者数 [1つ目に希 望した項]①	受講希望者数 [2つ目に希 望した項]②	受講希望者数 [3つ目に希 望した項]③	受講希望者数 (①②③の合 計)	
専門看護技術	345	337	209	891	36.1
感染予防	45	150	341	536	21.7
コミュニケーション	294	164	45	503	20.4
医療安全	306	67	39	412	16.7
業務改善	276	83	42	401	16.3
病態整理	75	137	127	339	13.7
看護記録	59	138	139	336	13.6
看護過程・診断	120	124	48	292	11.8
基本看護技術	66	127	97	290	11.8
心理相談	78	138	60	276	11.2
医療機器	108	102	57	267	10.8
基礎医学	44	104	109	257	10.4
医療・看護倫理	38	90	109	237	9.6
医療保険	86	93	50	229	9.3
キャリア開発	198	13	14	225	9.1
看護と法	27	61	120	208	8.4
看護教育	15	31	156	202	8.2
看護研究	27	67	95	189	7.7
看護管理	34	56	49	139	5.6
看護経済	18	65	44	127	5.2
臨床実習指導	8	27	73	108	4.4
看護理論	20	45	34	99	4.0
看護政策	6	8	81	95	3.9
看護トピックス	35	37	21	93	3.8
情報処理	24	31	18	73	3.0
代替療法	21	32	20	73	3.0
個人情報	8	9	47	64	2.6
ヘルスプロモーション	5	9	41	55	2.2
文献検索	5	16	13	34	1.4
その他	8	5	15	28	1.1

選択した  
受講希望  
項目

表4：研修・学習の日程（複数回答）

	人数	%
平日勤務時間内	1772	71.9
平日勤務時間以降	460	18.7
自己の休日	542	22.0
土曜日	421	17.1
日曜日	181	7.3
その他	61	2.5

表5：研修・学習の場所（複数回答）

	人数	%
短大	324	13.1
川崎駅周辺	1514	61.4
勤務地出張	1126	45.7
その他	213	8.6

表6：1回の学習の時間

	人数	%
1時間	455	18.5
1.5～2時間	926	37.6
半日	850	34.5
1日	204	8.3
その他	31	1.3

表7：1回の研修・学習の開催形態（複数回答）

	人数	%
単発	1384	56.1
定期的	1147	46.5
集中	632	25.6
その他	17	0.7

表8：1回の研修・学習の費用

	人数	%
2000円以内	703	28.5
2000～3000円	813	33.0
3000～5000円	536	21.7
5000～10000円	80	3.2
必要に応じて	276	11.2
その他	58	2.4

表9：研修・学習会を開催した場合の参加の有無

	人数	%
是非参加	486	19.7
参加	1133	45.9
どちらとも	767	31.1
しない	55	2.2
その他	25	1.0

表10：短大施設の利用希望（複数回答）

	人数	%
図書館	1560	63.3
パソコン	695	28.2
講堂	123	5.0
印刷室	101	4.1
実習室	75	3.0
会議室	126	5.1
生活療法室	164	6.7
その他	103	4.2

#### IV. 考察

##### 1) 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズ

「各項目に対する受講希望調査」「特に希望する項目調査」の両結果とも、「専門看護技術」がもっとも高かった。現在の医療の高度化や専門化に対応していくために強く必要とされている項目のためだと考えられる。また、今回の調査の対象者が、総合病院や大学病院に勤務する看護師スタッフが多かったことから、より一層「専門看護技術」を提供する場に遭遇し身近に必要性を実感している項目だとも考えられる。

次に、「各項目に対する受講希望調査」「特に希望する項目調査」の両結果の上位6項目は一致しており、「専門看護技術」「感染予防」「コミュニケーション」「医療安全」「業務改善」「病態生理」であった。「感染予防」や「医療安全」「業務改善」は、現在の医療界において、どの施設にも欠かすことのできない重要課題であり、その内容や対応がどんどん進歩し変化している内容である。看護職者にもその重要性が浸透していることを反映しているとともに、それらに

対応すべく知識や技術の必要性が示された結果だと考える。「コミュニケーション」と、それに関連して比較的上位に位置している「心理相談」など、対人関係に関する項目への学習ニーズが高かった。看護自体が人間との関わりをなくしては成立できないものであり、また日々の関わりの方々の様々な場面から、コミュニケーションの重要性、難しさを体験し必要性を示した結果だと考える。

水戸<sup>3)</sup>らのA県内病院看護師を対象とした生涯学習ニーズ調査においても「看護技術」「対人関係に関する内容」についての希望が高く、看護職者の多くが看護実践上の知識や技術、人間理解を深めるための学習を希望していることが示唆された。

設定した30項目すべてに受講希望があった。対象者の学習ニーズが多岐に渡り、それぞれの関心領域があることを反映した結果だと思われる。また、石飛<sup>4)</sup>らは、A大学附属病院に勤務する助産師・看護師に対し「看護の専門性を向上するために必要と感じているもの」について

内容分析を行った結果「知識・技能、学習の技能」のカテゴリーがもっとも効率で抽出され、看護師は看護の専門性を向上するために看護実践に必要な知識・技術の必要性を感じていると述べている。今回の結果も同様の結果を反映していると考えられる。

近年では多くの施設が、各施設内での継続教育プログラムを持ち充実させてきている。今回の対象者の約9割は、総合病院、大学病院に所属しており、それらの施設独自の卒後教育プログラムと関連させながら今回の学習ニーズの希望についても理解していく必要がある。今回は行っていないが、対象者の現任教育の状況や年齢別、施設の特徴、経験や職位などによる学習ニーズについて捉えていくことは今後の課題である。

## 2) 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを支援するための学習環境

専門職者の学習は、生涯にわたるものでありそれらを継続して行く上で、学習環境を整えることは重要である。学習ニーズを支援するための学習環境として今回は、「研修・学習の日程」「研修場所」「研修時間」「研修費用」などについて調査した。

研修・学習の日程について、「平日勤務時間内」という希望は現任教育とリンクしており、各施設内研修や施設での研修の扱い等について、調整が必要であろう。

学習ニーズを支援するための学習環境として、「自己の休日」「平日勤務時間以降」あるいは「土曜日」を用いて、「1時間～半日」程度の研修・学習希望があることがわかり、自分の時間を効率的に使って学習したいと考えていることがうかがわれた。また、学習場所としては「川崎駅周辺」が約6割と多かった。今回の調査対象者は、川崎市看護協会の会員であり、「川崎市周辺」の希望は受講に当たっての利便性を求めていると考えられる。「勤務地への出張」希望が次に多かったこと、逆に地の利のあまりよくない「短大」での希望が少なかったことも利便性に関連して解釈できる。

以上から、川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを支援するためには、時間的効率性を考慮し、利便性のよい場所という学習環境

の設定が重要であることが示唆された。研修時間や開催形態については研修内容との関連で考えていく必要がある。自己学習、生涯学習として研修費用を自己負担することについては浸透してきていると推測できる。

## 3) 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを支援するための本学の果たす役割

本学は、市内唯一の看護基礎教育を専門とする市立高等教育機関である。市内の看護職者に対し、「看護」の短期大学である特殊性や持つ専門的資源を提供していくことは重要な役割であると考えている。五島<sup>5)</sup>は、「大学の〈サービス〉とは、そもそも単に社会が望むものを提供するだけでなく、社会に必要とされるべき価値とは何か追求することであろう。それゆえ、公共の価値とは何かを探求し、創造していくことこそが、日本の大学に求められる〈サービス〉であると考えられよう」と述べている。ここでいう「サービス」とは、地域貢献であり、「社会が望むもの」とは今回得られた学習ニーズである。本学がそのニーズに応え支援していくためには、看護に今何が必要かを考え、そのために活用可能な本学の特色・資源を見極め総合的な視点から支援策を検討していくことだと考える。

1) でわかった学習ニーズに対して、一つには、本学が生涯学習施設としての機能を発揮して、ある程度の大きさを持つ集団の学習ニーズへの支援をしていくことが挙げられる。考察1) 2) を考慮して、例えば、受講希望の多かった「コミュニケーション」「心理相談」など対人関係に関する事柄やあまり多くの受講希望はなかったが「看護教育」「臨床実習指導」や「看護研究」「看護理論」「看護過程」などについて、看護基礎教育に関わる時間以外に日時や場所、内容を設定して、定期的あるいは単発に研修・学習会を開催することがこれに該当する。さらに、特定の施設や特定の小集団に対して、その研修・学習内容に応じてそれぞれの専門性を備えた短大職員が出張して個別支援を行うことが挙げられる。例えば、「看護研究の実践指導」「看護理論の実践適用」などについての支援が考えられる。

短大で研修・学習会を開催した場合の参加に

ついて、「ぜひ参加」「参加」を合わせて7割弱、「どちらともいえない」約3割であった。短大の設置場所短大施設の利用希望項目は、図書館がもっとも多く6割強、パソコン3割弱であった。現在の短大利用は、地域児童の課外活動としてのグラウンド開放や住民グループの体育館利用、市の行政関連の行事などへの会議室・体育館などの利用、多人数にわたる看護研修会の会場としての講堂の使用などである。2) で述べたように利便性の課題があると考えられるが、研修時間や開催形態、研修内容などにより、市内唯一の看護教育施設としての更なる施設設備の活用や人的資源の活用が可能である。例えば、本学実習室での「基本看護技術」学習の支援や「図書館での文献検索」「情報処理の実際」を含めた共同研究などは、臨床と基礎教育の場とが一体となって看護の質を向上していくことを可能にする支援であり、取り組みになると考えられ、今後の検討課題である。

## V. 結論

1. 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズは、「専門看護技術」が最も多く、次に「感染予防」「コミュニケーション」、「医療安全」「業務改善」「病態生理」が続いた。また、設定した学習項目30

項目すべてに受講希望があった。

2. 対象者の現任教育の状況や年齢別、施設の特徴、経験や職位などの違いによる学習ニーズについて捉えていくことは今後の課題である。
3. 学習ニーズを支援するための学習環境として、「自己の休日」「平日勤務時間以降」あるいは「土曜日」を用いて、「1時間～半日」程度の研修・学習希望があった。学習場所としては「川崎駅周辺」が約6割と多く、「勤務地への出張」続いた。「短大」での希望は少なかった。川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを支援するためには、時間的効率性を考慮し、利便性のよい場所という学習環境の設定が重要であることが示唆された。
4. 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズを支援するための本学の果たす役割として、一つには、本学が生涯学習施設としての機能を発揮して、ある程度の大きさを持つ集団の学習ニーズへの支援をしていくこと、さらに、特定の施設や特定の小集団に対して、その研修・学習内容に応じてそれぞれの専門性を備えた短大職員が出張して個別支援を行うこと、研修時間や開催形態、研修内容などに応じて、看護教育施設としての更なる施設設備の活用や人的資源の活用方法を検討することが考えられた。

## 文献

- 1) 堀喜久子、蔵谷範子、丹澤洋子他. 総合看護研究施設への期待に関する研究. 東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設年報. 第12号, 2003, p. 52-58.
- 2) 堀喜久子、滝澤直子、蔵谷範子他. 総合看護研究施設への期待に関する研究(第2報)ー看護継続教育と臨床看護の連携ー. 東海大学医療技術短期大学総合看護研究. 施設年報. 第13号, 2004, p. 7-15.
- 3) 水戸美津子・林滋子・松下由美子他. 看護職者の生涯学習ニーズとその支援状況ーその1 A県における病院看護師の調査ー. 日本看護学会誌. Vol. 16, No. 1, 2006, p. 196-206.
- 4) 石飛悦子・橋口智子・福山麻里他. 看護師の専門性の向上に必要な要素からみたキャリア発達支援システムの課題. 日本看護学会論文集 看護管理. 第36回, 2006, p. 383-385.
- 5) 五島敦子. アメリカの大学の社会貢献理念一定義と歴史的変遷の検討ー. 南山短期大学紀要. 第34号, 2006, p. 123-138.